

---

---

# 日本図書館文化史研究会

## ニューズレター

第 113 号 2010 年 7 月 31 日

日本図書館文化史研究会

<http://www.soc.nii.ac.jp/jalih/index.html>

〒101-8301 千代田区神田駿河台 1-1

明治大学司書・司書教諭課程  
郵便振替口座 00170-5-164973

---

---

### ■■ 目 次 ■■

日本図書館文化史研究会 2010 年度研究集会のご案内	2
オプションツアーのご案内	8
日本図書館文化史研究会 2009 年度活動報告 (2009.4-2010.3)	9
日本図書館文化史研究会 2009 会計年度決算報告 (2009.4-2010.3)	10
日本図書館文化史研究会 2010 年度予算(案)	11
図書館文化史研究 文献紹介 『近代日本公共図書館年表：1867～2005』 (根本 彰)	12
『図書館文化史研究』27 号発行のお知らせ	
2010 年度第 1 回例会報告	14
運営委員会通信	15
事務局だより	16
会費納入のお願い	
住所変更等のご連絡をお願いします	
会員動向	
『図書館文化史研究』第 28 号原稿募集のお知らせ	

日本図書館文化史研究会

2010 年度研究集会・会員総会のご案内

2010 年度日本図書館文化史研究会研究集会・会員総会を、下記のように開催することになりました。多くの方の参加を期待します。

記

- 日 程： 2010 年 9 月 11 日（土）・12 日（日）
- 会 場： 実践女子大学本館 4 階 442 教室  
東京都日野市大坂上 4-1-1  
<http://www.jissen.ac.jp/jpn/top/04/index.php>  
※ 7 ページに会場案内図を掲載しました。
- 交 通： JR 中央線日野駅下車、徒歩約 12 分  
<http://www.jissen.ac.jp/sonoma/a01/a01a01a02>
- 参加費： 2,000 円 懇親会参加費： 6,000 円
- 申込方法： 次の事項を明記して、下記申込先まで、はがき、ファックス、または電子メールにてお申し込みください。  
氏名（ふりがな）  
所属  
懇親会・オプションツアーA・B 参加の有無
- 申 込 先： 〒321-3295 宇都宮市竹下町 908  
作新学院大学 司書・司書教諭課程 小黒 浩司  
電子メール：[oguro@sakushin-u.ac.jp](mailto:oguro@sakushin-u.ac.jp)  
ファックス：028-670-3671
- 申込締切： 9 月 5 日（必着）でお願いします。
- プログラム

**第 1 日**：9 月 11 日（土）

10:30-11:30 オプションツアーA 日野市立中央図書館見学会

※ 詳細は 8 ページをご覧ください。

12:00- 受付開始

12:30-13:30 会員総会

13:40-17:00 シンポジウム「『市民の図書館』40 年」

13:40-13:50 開会挨拶

13:50-14:20 シンポジウムの趣旨 奥泉 和久（横浜女子短期大学図書館）

14:25-15:05 報 告① 森下 芳則（前田原市図書館）

15:10-15:50 報 告② 山口源治郎（東京学芸大学）

16:00-17:00 全体討論

17:30-19:30 懇親会（参加費：6,000 円）

浜寿司 本店（日野市多摩平 5-9-8 Tel：042-581-2259）

**第2日** : 9月12日(日)

- 10:00-10:55 個人発表① 「市民の図書館」を实践する：日野宿発見隊の活動  
渡辺 生子(日野市立日野図書館分館長)
- 10:55-11:50 個人発表② 第二次大戦中の中国における日本軍接收図書の研究  
鞆谷 純一(大阪市立大学大学院創造都市研究科)
- 12:30-12:55 オプションツアーB 実践女子大学図書館見学会  
※ 詳細は7～8ページをご覧ください。
- 13:10-14:05 個人発表③ 伊東平蔵と東京市立図書館の設立  
吉田 昭子(東京都立中央図書館)
- 14:05-15:00 個人発表④ 『佐野友三郎訳 デイクソン英文典直訳 攻玉社蔵版』共益商社書店、明治二十年」考  
小川 徹
- 15:00-16:00 運営委員会

**会員総会** (11日 12:30-13:30)

会員総会では、次のような案件の審議を予定しています。なお、その他検討すべき議案などがあれば、事務局までご連絡ください。

審議未了の案件がある場合、2日目の個人発表終了後に引き続き審議します。

**議事内容**

1. 日本図書館文化史研究会 2009年度活動報告(2009.4-2010.3)  
2009年度の活動内容をご報告します。9ページの資料をご参照ください。
2. 日本図書館文化史研究会 2009会計年度決算報告(2009.4-2010.3)  
2009会計年度の決算をご報告します。10ページの資料をご参照ください。
3. 日本図書館文化史研究会 2010年度予算(案)  
2010年度の予算、ならびに活動計画を提案します。11ページの資料をご参照ください。
4. 「(仮称)図書館文化史研究文献目録」について  
「(仮称)図書館文化史研究文献目録」の編集方針などについて報告します。
5. 「(仮称)日本図書館文化史研究会研究賞」について  
「(仮称)日本図書館文化史研究会研究賞」に関する協議経過を報告します。

※ 11・12日は、学内の食堂は休業です。大学、もしくは日野駅近辺のレストラン、コンビニ等をご利用ください(会場近辺のランチマップを別刷りしました)。

※ 宿泊は、各自でご手配ください。立川駅、八王子駅周辺に宿泊施設があります。

## シンポジウム・個人発表要旨

11日

### シンポジウム

- テーマ : 「『市民の図書館』40年」
- 報告者 : 森下 芳則 (前田原市図書館)  
山口源治郎 (東京学芸大学)
- 司会 : 奥泉 和久 (横浜女子短期大学図書館)
- シンポジウムの趣旨 (奥泉和久)

『市民の図書館』(日本図書館協会, 1970)が刊行されてから、今年で40年になります。

『中小都市における公共図書館の運営』(中小レポート)(日本図書館協会, 1963)の実現をめざして日野市立図書館がスタートし、日野の実践したサービスを全国に普及させるべく『市民の図書館』がつくられたことはよく知られているところです。その日野市にキャンパスを構える実践女子大学で本年の研究集会、併せて「『市民の図書館』40年」とのテーマでシンポジウムが行われることになりました。

『市民の図書館』は、1970年代以降の公共図書館のあるべき姿を描き、これまで図書館界では絶大な支持を得てきました。同書について多くの実践が報告され、図書館サービスや図書館史のテキストなどにも必ずといってよいほど概説がなされ、そこでは戦後の図書館の歩むべき道筋を主導したとの評価が定着しているといつてよいと思います。

ところが、1990年代以降の新自由主義的な政策にもとづく図書館法改正、民営化の推進などの動きのなかで、それまでの『市民の図書館』観の転換を促すサービス論が展開されました。これらには図書館をとりまく情報環境の急激な変化も背景にあり、現在の図書館サービスを再検討する必要から提起されたとの見方もできるようです。これに対し反論もなされたのですが、『市民の図書館』の歴史的な意義をめぐる論議はかみ合わず、未消化のまま現在に至っているように思われます。それだけに歴史研究として『市民の図書館』をとりあげようとするときの課題でもあるといえるでしょう。

そこで森下芳則氏(前田原市図書館)には、日野市立図書館で実際にサービスを実践された体験に基づいて、同館の果たした役割などを中心に、ご自身による検証を期待しています。また、その後田原市図書館長として新しい図書館づくり、図書館経営にかかわったお立場から、現在『市民の図書館』をどのようにとらえているのかについてもお考えを聞かせていただきたいと思います。

山口源治郎氏(東京学芸大学)は、上に述べたような『市民の図書館』をめぐる論議に関して、これまでも発言されています。それらを含め、あらためて現時点において『市民の図書館』を歴史研究の対象とするための論点整理をお願いし、さらには本格的な『市民の図書館』研究のための視座をいかにして

形成したらよいかなどについて検討していただきたいと考えています。

報告者、参加者による活発な議論を期待しています。

報告① 14:25-15:05

森下 芳則

○ 報告題名

コロンブスの卵とアルキメデスの支点

○ 報告要旨

70年代、日本の公共図書館にイノベーションがあった。理念が共有され、技術や条件が整った。『市民の図書館』には停滞する図書館状況を突破しようとする強い意志と危機感があった。

図書館員として仕事をしていく上で大事なことは二つ。図書館は社会の中でどのような役割を果たすのか、何のために図書館はあるのかということを理解すること。もう一つは、顧客、利用者は、図書館に何を求めているのかを探り、それに応えること。普遍的で、どのような仕事にも共通する初心。私は図書館の現場と『市民の図書館』から学んだ。

報告② 15:10-15:50

山口 源治郎

○ 報告題名

『市民の図書館』と公共図書館の戦後体制

○ 報告要旨

『市民の図書館』が刊行され40年が経過した。それは今日においても強い規範性を保っているとともに、論争的な存在であり続けている。『市民の図書館』は1970年代初頭に成立した公共図書館の「戦後体制」の重要な要素として存在した。そこに強い規範性の根拠がある。同時に今日、「戦後社会」の転換に直面し公共図書館のあり方が問われている。本報告ではそうした事柄を踏まえ、『市民の図書館』成立の背景、その構造的特徴、歴史的・社会的意義を、公共図書館の「戦後体制」という視角から分析したい。

12日

個人発表

発表① 10:00-10:55

渡辺 生子（日野市立日野図書館分館長）

○ 発表題名

「市民の図書館」を实践する：日野宿発見隊の活動

○ 発表要旨

日野市立図書館の分館、日野図書館では図書館職員がまちへ飛び出し、住民と共にまちのお宝や古い写真などを発見する活動をしています。図書館の活動がまちおこしにもつながり、まちを変えていく。住民に役にたつ図書館めざし

て、住民とともに作っている活動、有山氏がめざした「市民の図書館」をまさにその地元から発信します。

発表② 10:55-11:50

鞆谷 純一（大阪市立大学大学院創造都市研究科）

○ 発表題名

第二次大戦中の中国における日本軍接收図書の研究

○ 発表要旨

第二次大戦中の日本軍は、中国において多くの図書を接收していた。接收した図書の種類は、抗日文献、政府刊行物、古典籍など様々である。接收図書の用途も、一様ではなく、占領地で研究用として活用されたり、製紙処理されたりしている。そして接收図書の一部は、東京帝国大学附属図書館や帝国図書館といった我が国を代表する図書館に搬入されていた。

今回の発表では、論者がこれまで重ねてきた研究をまとめ、中国における日本軍接收図書について、その全体像を素描し、併せて論者の見解を表したいと思う。

発表③ 13:10-14:05

吉田 昭子（東京都立中央図書館）

○ 発表題名

伊東平蔵と東京市立図書館の設立

○ 発表要旨

伊東平蔵（1856-1929）は、東京外国語学校教授をつとめ、私立大橋図書館、宮城県立図書館、私立佐賀図書館、横浜市図書館等で設立準備や運営にあたった。日本で初めての図書館講習会の開催を推進するなど、図書館分野で多くの業績を残している。

伊東は明治 30 年代から始まる東京市立図書館設立準備においても、重要な役割を果たした。東京市立日比谷図書館設立準備段階で、伊東がどのように関わったのか、それが東京市立図書館の設立に与えた影響を検証してみたい。

発表④ 14:05-15:00

小川 徹

○ 発表題名

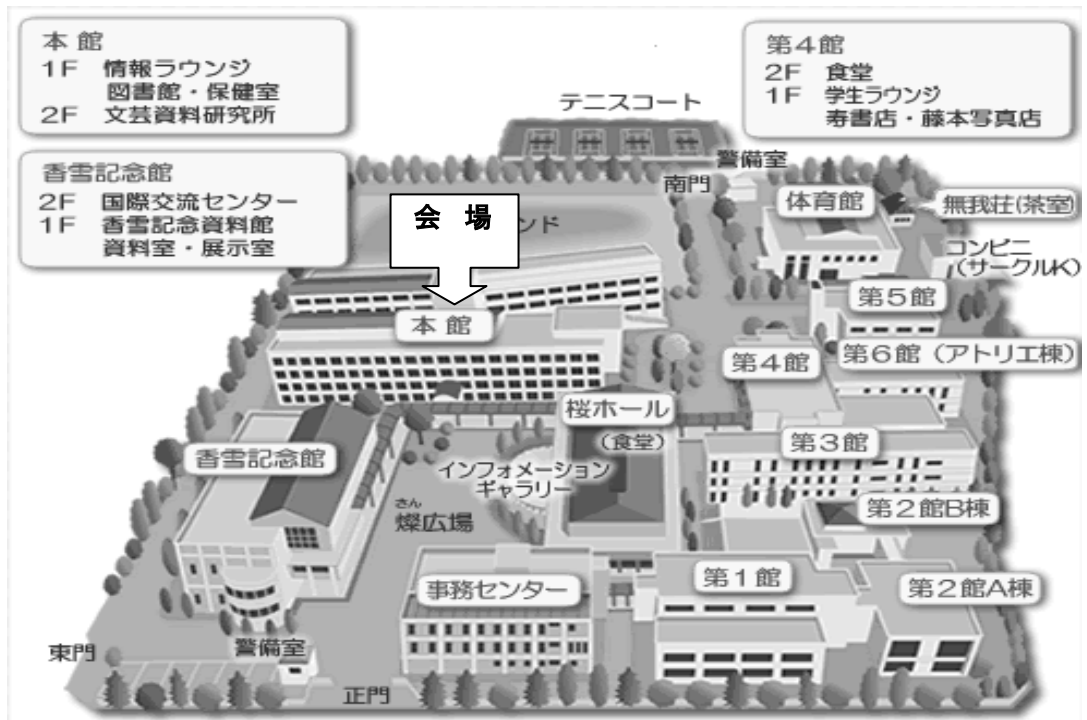
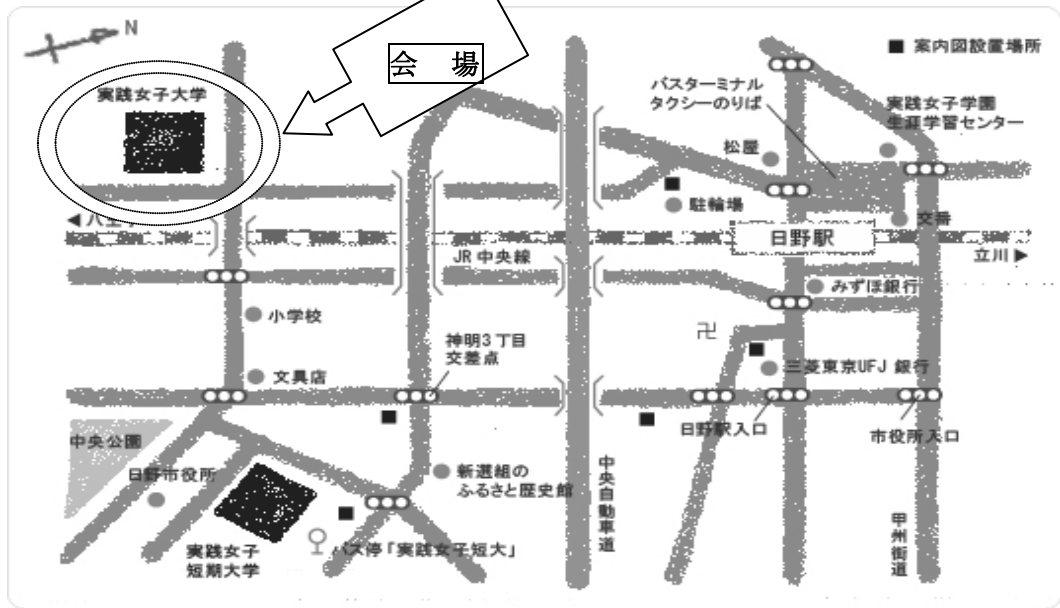
『佐野友三郎訳 デイクソン英文典直訳 攻玉社蔵版』共益商社書店、明治二十年」考

○ 発表要旨

佐野友三郎は、明治 30 年代から大正期にかけて、秋田・山口の県立図書館長として日本図書館史上名を残していますが、帝国大学文科大学和文学科学生るとき、英語・英文学担当の James Main Dixon 教授がテキストとして出版した“English lessons for Japanese students”を翻訳しています。このことはこれまで紹介されることがなかったと思うので、まだ分らないところがありますが、若き日の佐野の一面を物語るものとして報告をします。

会場案内

※ 会場は、実践女子短期大学ではなく、実践女子大学です。ご注意ください。



## 2010 年度研究集会オプショナルツアーのご案内

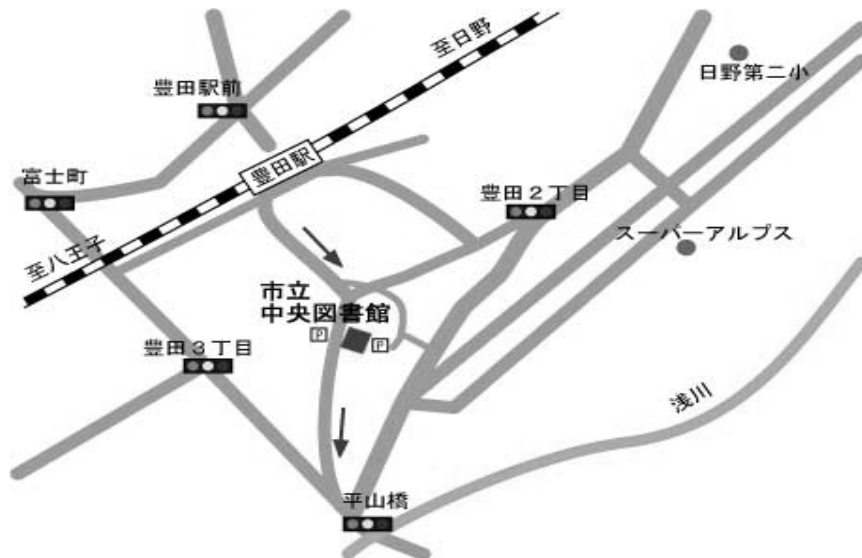
2010 年度研究集会の開催時に、以下の二つのオプショナルツアーを実施予定です。あわせてのご参加を期待します。

### A 日野市立中央図書館見学会

1. 日 時： 9月11日（土） 10時30分～11時30分（1時間）
2. 集合場所： 日野市立中央図書館玄関前  
日野市豊田 2-49 JR 中央線豊田駅南口下車徒歩 6分  
[https://www.lib.city.hino.tokyo.jp/hnolib\\_doc200801/sisetu/tyouyou.htm](https://www.lib.city.hino.tokyo.jp/hnolib_doc200801/sisetu/tyouyou.htm)
3. 集合時間： 10時20分
4. 参加定員： 25名（先着順で受け付けます）  
※ 見学会終了後は、タクシー相乗りで実践女子大学へ移動予定です。

### B 実践女子大学図書館見学会

1. 日 時： 9月12日（日） 12時30分～12時55分（25分）
2. 集合場所： 実践女子大学本館 1階図書館前  
<http://www.jissen.ac.jp/sonoma/a04a20a07/osakauemap/>
3. 集合時間： 12時25分
4. 参加定員： 25名（先着順で受け付けます）  
※ 12時～13時までの間、自由見学も可能です。





日本図書館文化史研究会

2009 年度活動報告 (2009.4—2010.3)

1. 2009 年度 (第 25 回) 研究集会・総会の開催 (参照:『ニューズレター』第 109 号)  
期 日 2009 年 9 月 12・13・14 日  
会 場 皇學館大学  
○ 第 1 日目は、オブショナルツアーを実施した。第 2 日目は、会員総会、シンポジウム、懇親会を実施した。第 3 日は個人発表 4 件と運営委員会を実施した。  
○ 2008 年度活動報告、2008 年度決算報告、2009 年度予算、『図書館文化史研究』の編集体制等の見直しについてなどが審議された。
2. 機関誌『図書館文化史研究』第 26 号の刊行 (2009 年 9 月)  
2008 年度特別講演の記録、研究ノート 1 篇、書評 1 篇、書評への反論 1 篇、索引 1 篇を掲載・刊行した。
3. 会報『ニューズレター』の編集刊行  
第 108 号を 2009 年 4 月、第 109 号を同 7 月、第 110 号を同 10 月、第 111 号を 2010 年 2 月に刊行した。
4. 研究例会
  - (1)第 1 回例会 (期日:2009 年 5 月 16 日、会場:ドーンセンター)  
旧 CIE 図書館職員豊後レイコ氏からの聴き取りを実施した。  
(参照:『ニューズレター』第 109 号)
  - (2)第 2 回例会 (期日:2009 年 11 月 28 日、会場:明治大学)  
2 件の発表を実施した。(参照:『ニューズレター』第 110 号)
  - (3)第 3 回例会 (期日:2010 年 3 月 20 日、会場:日本図書館協会会館)  
日本図書館協会、東洋大学図書館学専攻生との共同開催で、「石井敦先生を偲ぶ会」を実施した。(参照:『ニューズレター』第 111 号)
5. 石井敦先生追悼事業の実施  
名誉会員・石井敦氏のご逝去を痛み、前記「石井敦先生を偲ぶ会」の実施等の追悼事業を実施した。
6. 運営委員会の開催  
2009 年 5 月 16 日 (ドーンセンター)、9 月 14 日 (皇學館大学)、11 月 28 日 (明治大学)、2010 年 3 月 20 日 (日本図書館協会) の 4 回実施した。
7. 会員動向  
2010 年 3 月末日現在:184 名 (うち名誉会員 4 名)  
新入会:7 名 退会:9 名 (うちご逝去 2 名)

日本図書館文化史研究会  
2009会計年度決算報告(2009.4-2010.3)

収入		956,505
	金額	備考
郵便局貯金受取利子	370	
	80	4月1日
	208	7月21日
	82	10月1日
『図書館人物伝』印税	15,039	
第1回例会剰余金	14,230	詳細別紙
機関誌在庫売上	1,617	
会費	543,480	
08年度分	18,000	6名
09年度分	534,000	178名(ほか前年度納入済2名、名誉会員5名、未納6名)
10年度分	9,000	3名
同振込手数料	-17,520	80円102件、120円78件(ほか自己負担等5件)
2008年度繰越金	381,769	
支出		542,210
	金額	備考
『図書館文化史研究』25号製作・発行費	381,091	詳細別紙
『ニューズレター』108号製作・発行費	30,275	
印刷費	14,700	
振込手数料	105	
送料(1)	15,280	191通*80円
送料(2)	190	海外会員分
『ニューズレター』109号製作・発行費	31,005	
印刷費	15,750	
振込手数料	105	
送料(1)	14,960	187通*80円
送料(2)	190	海外会員分
『ニューズレター』110号製作・発行費	30,205	
印刷費	15,750	
振込手数料	105	
送料(1)	14,160	177通*80円
送料(2)	190	海外会員分
『ニューズレター』111号製作・発行費	31,405	
印刷費	15,750	
振込手数料	105	
送料(1)	15,440	193通*80円
送料(2)	110	海外会員分
09年度研究集会補助	20,064	詳細別紙
事務局経費	18,165	
通信費	3,890	詳細別紙
事務用品等購入	14,275	詳細別紙
2010年度への繰越金	414,295	

監査の結果、帳簿の記入、事務処理が適正に行われていたことを報告します。

監事 山本 順一 印  
監事 山口源治郎 印

## 日本図書館文化史研究会 2010年度予算(案)

<b>収入</b>		<b>964,455</b>	
<hr/>			
		<b>金額</b>	<b>備考</b>
郵便局貯金利子		160	
会費		550,000	
	2010年度分	570,000	190名*3,000円
	同振込手数料	-20,000	120名*120円+70名*80円
2009年度繰越金		414,295	
<b>支出</b>		<b>550,000</b>	
<hr/>			
		<b>金額</b>	<b>備考</b>
『図書館文化史研究』26号発行費		380,000	
『ニューズレター』発行費		131,000	
	108号	32,000	(発行済)
	109号	33,000	
	110号	33,000	
	111号	33,000	
研究集会運営費		10,000	
研究例会運営費		10,000	
	第1回例会	10,000	
	第2回例会	0	
	第3回例会	0	
事務局経費		19,000	
	通信費	4,000	
	事務用品等購入	15,000	
2010年度への繰越金		414,455	
<b>特別会計</b>		<b>500,000</b>	

## 【図書館文化史研究 文献紹介】

近代日本公共図書館年表：1867～2005 / 奥泉和久編著  
 東京：日本図書館協会, 2009  
 x, 467p ; 26cm  
 ISBN 978-4-8204-0913-7

本書は、文字通り日本の近代公共図書館について、文献に現れた事項を丹念に年表化した他に類を見ない労作である。掲載事項は、明治政府成立の前年1867年（慶應3年）刊の福沢諭吉『西欧事情』に図書館について言及されたことから始まり、最後は、2005年12月に千葉県野田市議会が市立分館を指定管理にすることを可決という項目で終わっている。掲載事項数は明記されていないが、ざっと数えて1ページに50項目で本文が300ページ以上あるから15000項目程度はあるものと考えられる。

文字通りの年表と書いたのは、それが情報サービス論の教科書にある年表 **chronology** の典型的な作品であるからである。単に事項を年代順に並べたものというのにとどまらず、2276の典拠文献に掲載された事項を抜き出して整理し、異同の確認を行った上で時系列に掲載している。掲載する際に、「公共図書館」「図書館界」「一般事項」の3つの欄に分けており、個々の事象が同年代の一般社会あるいは図書館界で起こったこととどのような関わりをもつのかを、横に見ていけば理解できるようになっている。また、巻末の索引には、1ページ100項目で97ページあるからざっと10000項目の索引事項が掲載されており、ここから本文にアクセスする検索窓の役割を果たしている。

このような作品は、今はやりの全文検索の手法を使えば比較的容易につくれるように思われるかもしれないがとんでもないだろう。もちろん編集作業にコンピュータをうまく使っていることは確かであるし、インターネット上の情報も利用している。

だがもっとも中心的な歴史的事象の抽出と年代の確定という部分はまったく手作業というよりも研究そのものであり、編者の歴史意識と方法が問われる部分である。どの歴史事項を掲載するのか、ある歴史事項を確定するのにどの文献に依拠するのか、記述は体系的で首尾一貫しているのかといったことである。この点について、評者にはこの年表のすべての時代にわたって評価する資格はないが、自分でも関心のある第二次大戦後のいくつかの事項や人物、機関名などを調べてみて、信頼おける記述であることを確認した。

さらに、時代区分の最初にその時期についての概要を記し、150本以上のコラムおよびほぼ同数の事項関連の図表が散りばめられている。これらによって、本書は、近代日本公共図書館史の（狭義の）年表であると同時に歴史辞典、さらに書誌の役割を果たす総合的なレファレンスツールといえるだろう。

何よりも凄みを感じるのは、参照している文献が図書館関係の一般的な図書や雑誌にとどまっていないということである。各公共図書館が刊行した図書館史（正史あるいは官制史）は言うに及ばず、研究論文、自治体史（都道府県市史、市町村史など）や大学図書館史や学校図書館史、大学史、学校史、教育史、

図書館の年報・要覧、地方新聞記事や、文書館所蔵の公文書など入手可能なありとあらゆるものが情報源になっている。いったいどうやって入手したのかと思われるものも多数含まれている。編者は、小川徹、奥泉和久、小黒浩司著『公共図書館サービス・運動の歴史』（日本図書館協会、2006、2冊）の主たる部分の執筆者でもあるが、その執筆過程で発見されたものも使用されているのではないと思われる。

その意味で編者の歴史研究の副産物ではあるだろうが、同時にこれが公になることで日本の図書館史学は最良の研究基盤という恩恵を受けることができたのである。本書は公共図書館史の研究者は言うに及ばず、日本の図書館史に関心をもつすべての人に必携の文献である。

根本 彰（東京大学）

### 『図書館文化史研究』27号発行のお知らせ

機関誌『図書館文化史研究』第27号は、9月刊行予定です。目次は以下の通りです。お手元に届くまで、今しばらくお待ちください。

#### [シンポジウム]

これからの図書館史教育と図書館史研究

日本図書館文化史研究会 2009年度研究集会

シンポジウムの趣旨

小黒 浩司

省令科目をふりかえる

—戦後における司書・司書教諭養成課程を整理する—

柴田 正美

日本の司書養成省令科目における図書館史関係事項の取扱い

—その変遷と現代的位置について—

志保田 務

#### [豊後レイコ氏に聞く]

CIE 図書館について

豊後レイコ

#### [岡田弘子氏に聞く]

岡田健蔵を語る

岡田 弘子

中山 公子

#### [研究ノート]

ウェスタン・リザーブ大学ライブラリースクール「シェラ時代」（1952-70年）のカリキュラムの変化

松崎 博子

#### [書評]

津山光洋著『図書館の屋根の下で』を読んで

高梨 章

#### [石井敦先生追悼]

頌賛愚公石井敦先生

藤野 幸雄

石井敦さん追悼

河井 弘志

石井敦先生略年譜

石井敦先生図書館学権著作目録

飯田 勝彦

奥泉 和久

## 2010 年度第 1 回研究例会報告

2010 年度第 1 回例会は、6 月 19 日に江東区立深川図書館 3 階ホールを会場に開催されました。参加者は 24 名でした。開催にあたりお世話になった深川図書館の皆さまにお礼申し上げます。

なお、発表のレジユメをご希望の方は、事務局までお申し込みください。

### 【発表 1】

○ 発表者

**大滝 則忠**（東京農業大学）

○ 発表題名

米国議会図書館所蔵の日本検閲コレクションの意義—近代発禁図書の所在を探して—

○ 発表要旨

今後の近代発禁図書の研究基盤として、個々の発禁図書にだれもがアクセス可能になること、そのため個々の書誌的記録が明確となり、図書館等が担う公的蔵書中に所在確認できることが課題となる。米国議会図書館の関係蔵書は、旧内務省検閲原本が戦後接収を経て現存するという経緯から、重要な意義を持つ。その一部 1,062 件は 1975～78 年に国立国会図書館に返還された。残存のうち「MOJ75-A」1,153 件 1,286 冊（マイクロ化未実施で別置）中に発禁図書 1,027 件（うち 136 件は国内未所蔵）が含まれ、その多くに処分原本としての痕跡がある。他に「MOJ78」437 件（マイクロ化済み）、「翻訳コレクション」3,931 冊についても更なる詳細検討が必要となる。米国にある発禁図書が近い将来にデジタル化され、日本国内でもアクセス可能になることが望まれる。

### 【発表 2】

○ 発表者

**西村彩枝子**（元深川図書館）

○ 発表題名

『深川図書館 100 年のあゆみ』を編纂して

○ 発表要旨

DVD『深川図書館 100 年のあゆみ』上映の後、『深川図書館 100 年のあゆみ』の編纂について、2008 年からの写真や戦前文書類の整理、区立図書館職員による『あゆみ』執筆など、2009 年 8 月末に完成するまでの経過を報告。

なお、DVD に収録された「ブック・モビルの歌」は、図書館法制定 25 周年記念として日本図書館協会が企画・制作によるものである。

参考：『深川図書館 100 年のあゆみ』を編集して（千葉裕子『みんなの図書館』2010 年 6 月号）

## 運営委員会通信

### ■ ■ 次回運営委員会について ■ ■

次回運営委員会を、下記のように開催します。本研究会の運営に興味・関心のある方は、是非ともご参加ください。

当日ご都合の悪い方は、別記事務局まで郵便、ファックス、または電子メールで、ご意見、ご希望等をお寄せいただければ、運営委員会で検討いたします。

### 記

- 日 時 9月12日(日) 15時～16時
- 場 所 実践女子大学本館4階442教室
- 内 容
  1. 2010年度第2回例会について
  2. 2010年度第3回例会について
  3. 「(仮称)図書館文化史研究文献目録」について
  4. 「(仮称)日本図書館文化史研究会研究賞」について
  5. 2011年度研究集会について

ほか

### ■ ■ 前回運営委員会の報告 ■ ■

実施日：2010年6月19日  
場所：江東区立深川図書館

以下のような事項について、協議しました。

1. 2010年度研究集会・会員総会について
2. 2010年度第1回研究例会について
3. 2009年度決算・活動報告
4. 『図書館文化史研究』第27号について
5. 2010年度第2回研究例会について
6. 「(仮称)図書館文化史研究文献目録」について
7. 「(仮称)日本図書館文化史研究会研究賞」について
8. 2010年度事業計画・予算案について
9. 『ニューズレター』第112号について
10. 『ニューズレター』第113号について
11. 会員動向
12. 次回運営委員会について

ほか

## 事務局だより

### ■■ 会費納入のお願い ■■

2010年度会費の納入をお願いします。会費は3,000円です。振替用紙は前号に同封しましたが、見当たらない方は事務局までご請求ください。

なお、日本郵政公社の窓口扱いの口座送金手数料が値上げされました。つきましては、会費の送金は極力ATMをご利用くださるようお願い申し上げます。

### ■■ 住所変更等のご連絡をお願いします ■■

研究会からの刊行物の送り先などについて変更が生じた場合、あるいは封筒貼付の宛名ラベルの記載が不正確な場合、早めに事務局までご連絡ください。

### ■■ 会員動向 ■■

#### 勤務先変更

井谷 泰彦 早稲田大学大学院教育学研究科

#### 退会

膽吹 覚  
高島 涼子  
宮内美智子

### 『図書館文化史研究』第28号原稿募集のお知らせ

機関誌『図書館文化史研究』第28号の原稿を募集中です。  
原稿の締め切りは、2010年12月末日です。ふるってご投稿ください。  
なお、この件に関するお問い合わせ、ならびに原稿の送付先は別記事務局までお願いします。